

コロナ禍での就職活動を通して変化した気持ち

経営情報学部4年 森 葵衣

私は整体師を目指しながら、就職活動・インターンシップを3年生の6月から始めました。整体に興味を持ったきっかけは、中学で始めたソフトボールを高校2年生のときに、怪我やイップス（精神面や心理的原因もしくは何らかの理由で、これまで出来ていた動作が思い通りに出来なくなる症状）で、あまり練習に参加できない状態になったことです。その状況で、少しでもチームメイトの役に立ちたいと思い、得意なマッサージを行いました。すると、チームメイトが笑顔で「身体が楽になったよ」と言ってくれたことが嬉しく、関心を抱きました。一番の目標は、整体師になることですが、もし合格できなかった場合と、第二のキャリアのことも考えて幅広く業界研究し、会社説明会やインターンシップに参加していました。

就職活動を通して気づいたことは、自己分析の重要性です。就活中だけでなく、社会人になったあとも自己分析は大切だと思うようになりました。初めは、自己分析の重要性をあまり理解していませんでしたが、整体師以外で就職するなら、自分はどのような職業なら働くことができるか、また、自分にとって楽しいと思える職業は何かと考えたときに、自分のことをしっかり理解していないと決められないと気づき、自己分析の必要性を認識しました。

そしてそれは、履歴書の内容を考えるために自分のことを知るだけでなく、1つの業界に絞っていた視野が広がり、他に自分が心地良く働けると思える業界に出会えるチャンスだと思います。また、改めて自分自身を見つめ直すことができ、将来のビジョンを考える良い機会

でもあります。しかし、みんながみんな簡単に自己分析出来るとは限りません。私も自己分析するのが難しいと感じていたため、友達や家族などに聞いてみたり、自己分析ツールで出た結果を参考にしたりしていました。そして、自分で当てはまると思うものをピックアップしてノートなどに書き、それをもとに履歴書を作成しました。

自己分析をしているうちに、自分はどのような企業に勤めたいのかが明確になり、私は主に「会社の方針・社長の熱意・自分の価値観と近いか」の3つを基準にして企業を見ていました。このように決めたことで、「どの企業も良くて選べない」ということはありませんでした。また、自分にとってあまり興味の無い会社の説明会を数社聞いてみるのも、企業選びの参考になると思います。

私は、この就職活動を通して沢山の方々と関わり、自分の考え方や心が成長することができました。大学の授業や課題と並行して就職活動をするのが大変で、途中投げ出しなくなる時もありましたが、家族や先輩方、共に頑張っている友達、大学の先生やキャリア支援課の方々が心の拠り所となり、最後まで気を緩めずやり遂げることができました。

就職活動で不安なことも多く、周りと比べてしまい変に焦ってしまうと、後々後悔する可能性があります。人それぞれ自分に合った就職活動があるので、気負わず自分のペースで進めていくのも大切だと思います。また、就職することがゴールではないので、自分と向き合う時間にするのも良いと思います。私の意見が、少しでも役に立てれば嬉しいです。



松本ゼミ（スーパー事業部）の集合写真



女子フットサル部



済州平和フォーラム研修

経験を自信に

グローバルスタディーズ学部 4年 萩原 汐海

私は SGS へ入学したことをきっかけに、人間として大きく成長したと感じました。

高校生のころからチャレンジすることの楽しさを知り、大学へ入学してからも今までに経験したことがないものに挑戦しようと決めていました。そんなとき、SGS の学部説明会へ参加した際に、大学の特色やカリキュラムを聞き、入学後の自分のビジョンが鮮明に見えました。実際、SGS には学生向けのイベントが豊富な「I Love 湘南プロジェクト」があり、入学当初からいろいろなイベントに参加してきました。

今回私が参加して1番成長したと感じた二つのプロジェクトを紹介します。一つ目は、1年次から毎年夏に参加している「多言語メニュー作成支援」です。藤沢市観光協会の方々にお世話になりながら、藤沢市周辺の飲食店のメニューを最大5か国語まで翻訳する活動をしています。実際、お店へのヒアリングを自分たちで行い、ニーズに合ったものを藤沢市役所で作成しています。1年生のころに初めて参加した際に先輩方や後輩たち、さらに、先生方と一丸となって作成する楽しさや、メニュー完成後の達成感が忘れられず毎年参加をしています。

二つ目は、2年次から参加した「ぶらりごみ拾い」です。1年生のころは“ごみ拾いなんて地味なだけ”とマイナスなイメージを持っていました。

しかし、1年次に参加した友人の話聞き、学生や教員、関係者の方だけではなく、地域の方々も参加するイベントであるためやりがいを感じられる、と聞きました。その話をきっかけに興味をわき、参加を決意しました。残念ながら初めて参加した際は雨天中止となり、学生、教員そして、関係者の方々のみでの実施となってしまいました。しかし、同年の秋に他大学と合同で開催された際は副委員長として参加ができ、副市長や議員の方へ直接ご挨拶をしに行くという、とても貴重な経験をさせていただきました。

このように私が参加してきたどのプロジェクトも外部の方々と一緒に活動することがほとんどでした。これらすべては多摩大学のグローバルスタディーズ学部ならではの経験だと思います。

私は I Love 湘南プロジェクトへの参加を機に、社会人としての常識やマナーを学べました。それが自信となり、今では自分を大きく見せるための長所として生かされています。多摩大学での経験を誇りに思い、自信を持って社会へ旅立とうと思います。



多言語メニューリスト作成の様子



ぶらりごみ拾いの様子

留学を通して得たもの

グローバルスタディーズ学部 4年 宮田 夏光

私は小さい頃から英語に触れる機会が多くあったことから、元々英語は好きでしたが、英語が使えるわけではありませんでした。

SGS に入学してから1年間は、AEP でほぼ英語漬けの毎日をご過ごしていました。そして2年生になる頃には、ある程度の英語の基礎を身につける事ができました。しかし、1年間かけて英語を理解してきたのに、このままで終わるのは勿体ないと思ったのと、入学当初から大学生のうちに何かしらチャレンジしてみたいと思っていました。そこで私は、2年生の秋学期に半年間ニュージーランドに留学する事を決めました。

留学後最初の1ヶ月位は英語が使えず、せっかく出来た他の国の友人たちと思うようにコミュニケーションが取れず、悔しい思いをしました。そこで語学学校の授業や自習はもちろん、それでは日本で英語を勉強しているのと変わらないと思い、英語が話せないなりに積極的に友人を誘い、遊びに行くようにしました。そのおかげもあり、3ヶ月経つ頃にはだいぶ英語が使えるようになり、さらには思い切ってホームステイを出て、自分でシェアハウスを借りる事も出来るようになりました。

半年が経ち、日本へ帰る頃にはニュージーランドで出来た友人達が私の為にお別れ会を開いてくれるまで仲良くなる事ができ、未だに SNS 等で連絡のやり取りをしています。

この半年間の留学は私にとって貴重な経験であり、留学前、たったの300点少ししかなかった TOEIC のスコアも留学後には600点以上まで上がり、しっかりと英語力を上げることができました。日本に戻ってきてからも、英語を使わなかったらせっかく勉強した事を忘れてしまうと思い、積極的に英語を使う授業を履修したりするなど、SGS に入ったからこそ留学後も英語に触れる機会が作れたと思っています。また、SGS では授業だけでなくボランティア活動でも英語力を必要とする時があるので、留学で学んだ事を活かす機会が多いのも SGS ならではの良さだと思います。

現在、4年生になりましたが、今まで SGS に入って様々な事にチャレンジして、その度に色々な事を学ぶことができ、非常に価値のある有意義な大学生活が過ごせました。

最後にこの場をお借りして、私の大学生活で様々な機会を与えてくださった安田震一学部長、並びに SGS の先生方、SGS に行かせてくれた両親に改めて心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



留学中のホストファミリー



ニュージーランド留学で出来た友人たち



語学学校のクラスメイト